

## 「地域づくりファシリテーター養成講座」

日時：平成28年7月16日(土) 会場：青森県立図書館 集会室

### 1 講義・演習：「参加者の主体性を引き出し、一步踏み出せるファシリテーション」

アクティブシニア委託団体関係者や大学生団体（キャリサポ連合、レスタ）関係者等約60名が参加し、講座が行われました。講義では、会議ファシリテーター普及協会（MFA）代表 釘山 健一 氏から「真面目」の中にも「遊び心」を加えた雰囲気作りについて、具体的に説明していただきました。受講者は拍手をしたり、つつこみを入れたり、ファシリテーターの役割を実感しながら、楽しい講義に聴き入り、新たな進行役のあり方について学び、今までの考えを大きく変える契機とすることができました。

#### 【概要】

- ・人を育てていこう、主体性を育てていこう（楽しいとき）⇒そのために工夫しよう。
- ・話し合いを楽しむ⇒”青森県に楽しい対話の文化を”⇒成果⇒組織を元気に。
- ・ファシリテーターは楽しく進めることのできる人。意見をまとめるのではなく、まとめさせる人。自分で考えない。”どうしましょう？”と参加者に投げかけることが大事。

【するどいつっこみ】



【笑いの渦の中で】



【小道具の大切さ】



【熱の入ったグループ演習】



“理想の会議” 土台作りが大切

「人は楽しいときに動く」～気楽に・楽しく・中身濃く～

- ①楽しい…一部の人だけの発言ばかりで、楽しくないのは会議ではない
- ②聴き合う場…人の考えを聞いて自分の考えを深める場（アイデアの競い合いからの脱却）
- ③時間を守る…定時で始める（遅れた人には厳しい態度を取る）

2 演習：常識を覆す「トランプ方式」

会議はみんなで「聴いて・付け足す」場ということで、具体的にやってみました。①個人のアイデア 10 個を付箋に 1 つずつ記入。②次に、全員のアイデアを模造紙やホワイトボードに出し合う。（張り方はみんなに見やすいように向きの工夫が必要、タイマーも中央に置く）③そして、1 枚張り出される度に「なるほど～、それならねえ…」と出された意見にみんなで「付け足し」をしていく。この「付け足し」こそ、脳にひらめきを起こす刺激となります。どのグループも和やかな雰囲気での話し合いが行われました。この「聴いて・付け足す会議」の威力は絶大でした。

【熱い討論の様子】

【盛り上がった講座】



【総括】「最高の結論」よりも実行を重視

- 時間内に出た結論を結論という。そこそこの結論でいい。
  - ⇒みんなでやってみよう。いっぺんはやってみよう（反対の人がいてもかまわない）
  - ⇒組織が元気になり、活性化する。
- ▲みんなで最高の結論を出そうというのは、悪魔の考え。
  - 一般的に「リスクの少ない結論」を求めてしまい、それを目指して延々と会議を続けると、疲れ果ててしまう”

〈 講師プロフィール 〉



**釘山 健一 氏（会議ファシリテーター普及協会（MFA）代表）**  
 その講座は、具体的で、決して眠くならないと大好評を得ており、全国各地で開催され、年間実績は100本を超えている。  
**【著書】**  
 「もっとすごい！非常識な会議」 ソフトバンククリエイティブ  
 「会議ファシリテーションの基本がイチから身につく本」 すばる舎  
 「誰でも60分以上スイスイ講演ができるコツ」 すばる舎  
 「うちとけの法則」 すばる舎